



5 先輩からのメッセージ

兵庫県内の福祉職場で活躍する先輩方から、これから福祉の仕事に就こうとする方に向けてのメッセージを寄せていただきました。



保育士 金谷 有香子 さん（相生市）

社会福祉法人 後楽園
保育園ゆりかごの家

小さな子どもたちの純真無垢な姿、無邪気な笑顔は、いつも私たちの心を癒してくれます。そんな子どもたちの心にずっと添っていたいと思ったのが、保育士をめざそうと思った最初のきっかけでした。

実際現場に入ると、無邪気な笑顔を振りまく姿ばかりではありませんでした。無表情な子、どこかオドオドしている子、笑顔は見せるが、その中に感情が見えてこない子…。子どもたちをとりまく環境が個々に違い、集団でありながらも、それぞれに合ったケアが必要であることを知りました。子どもたちが今、何を求めているのか。そして、どんな保育をやっていけばよいのかと悩み、いろんな文献を読み、先輩からのアドバイスをいただきながら、毎日保育しています。

保育士という仕事に、終わりはありません。たとえ、その時に良い結果が出ても、子どもたちは日々成長しているので、また新たな問題点が見えてきます。この仕事をしている限り、悩み事、失敗はつきもの。これは、年数を重ねても消えることはありません。心身ともにしんどい時もあるけれど、とてもやりがいのある奥深さを感じる仕事だと思います。

『子どもにとって、最大の保育環境は、保育士自身である。』（保育士が子どもに与える影響は大きい。保育士の育成は子どもの成長につながる。）が、私たちの保育園のモットーです。子どもたちは、保育士の笑顔をみると安心します。心の中の思いに気づいてくれると、信頼を寄せてくれます。どうか、笑顔で子どもたちと接する事ができる、相手の気持ちを大切にできる保育士をめざしてほしいと思います。



社会福祉士 山下 雅夫 さん（神戸市須磨区）

社会福祉法人 ヨハネ会
いたやど障害者地域生活支援センター

私が福祉の仕事に関心をもったきっかけは、祖父が認知症になったことでした。そして福祉の支援により、祖父やその周りの家族はいきいきとした表情をみせるようになりました。利用者のニーズを把握してサービスをつなぐことで、利用者とその周りの家族全体の生活はより良いものにかわります。そういった福祉の仕事に魅力を感じて、社会福祉士の資格を取ることに決めました。

私は障害者地域生活支援センターに勤務しています。障害者地域生活支援センターは、電話や来所、またはこちらからの訪問等で、利用者のより良い生活を一緒に考える相談窓口です。利用者やご家族、福祉や教育に関わる関係機関や障害者団体と密接な連携を図り、障害のある人、ない人がともに暮らす地域づくりを行う、地域自立支援協議会にも関わっています。

利用者はより良い生活に近づく事で自分の障害を気にせず、乗り越えていきます。この仕事は、利用者と一緒により良い支援を模索し、後ろから支える「黒子」のような役割だと私は考えています。いきいきと生活していく利用者の姿を見ることが仕事のやりがいにつながっています。

自分たちが暮らす地域を見据え、必要な活動、求められているサービスを関係機関と一緒に考えていくこともこの仕事の魅力の一つです。しんどいこと、辛い経験もありますが、多くの喜びや充実感もあります。私たちの仕事の仕方は利用者から教わることもあり、これも対人援助職ならではの道だと思います。